

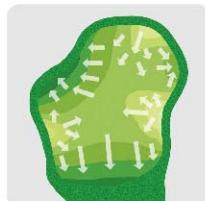
No.1 PAR 5 HDC 5

BACK	REGULAR	FRONT	GOLD	LADIES1・2
●474Y	●457Y	●447Y	●417Y	●417Y

スタートティングホールらしくフェアウェイは広いロングホール。ティーショットは打ち下ろしているが、セカンド以降はしっかり打ち上げているのでやや大きめのクラブを選びたい。グリーンは左奥が下っているので、花道からセンター狙いが安全である。



グリーンの高低差



POINT

大きく分けて3つの面がある

- ①手前に受けている面
- ②左奥に下がっている面
- ③マウンドまわりは傾斜があるが比較的平らな面

まず最初に、このグリーンで一番高い所を見つけます。それが左右と奥にある3つのマウンドではほぼ同じ高さになっています。次に一番低い所は、フロントエッジと左奥になります。そうすると、このグリーンは3つの面に分かれていることになります。これを覚えておいていただくとロングパットのときでも、ラインとタッチのイメージを出しやすくなります。このグリーンで一番注意したいカップ位置は、真ん中から左奥にあるときです。左奥にわりと下り傾斜がきついので、簡単にグリーンをこぼれ出やすいからです。いっそのことショットやアプローチで少しオーバーさせておいた方が、返しのパターは上りとなり易くなります。

奥行 28Y 幅 25Y

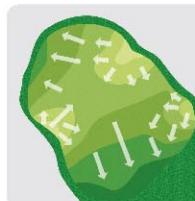
No.2 PAR 4 HDC 17

BACK	REGULAR	FRONT	GOLD	LADIES1・2
●368Y	●358Y	●343Y	●333Y	●333Y

比較的距離の短い打ち下ろしのミドルホール。ティーショットは左の張り出した松に注意して正面の鉄塔狙い。グリーンは右手前や左奥にボールがこぼれ易く、そこからの寄せは大変難しくなるので、センター狙いが安全である。

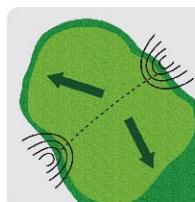


グリーンの高低差



POINT

大きな傾斜は左右の面に分かれている



奥行 28Y 幅 28Y

No.3 PAR 3 HDC 13

BACK	REGULAR	FRONT	GOLD	LADIES1・2
●176Y	●148Y	●136Y	●121Y	●121Y

西宮が箱庭のようなコースと言われる代表的な池越えのショートホール。軽く打ち下ろしで距離的にはないが、視界に入る重圧は相当である。左の池を避けてグリーン右横に打つのは安全だが、グリーン右の大好きなマウンドが影響しており容易には寄せられない。

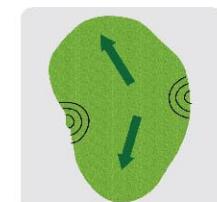


グリーンの高低差



POINT

手前は受けているが奥へは下っている



このグリーンの一一番高い所は、右のマウンドです。そして一番低い所は、左手前と左奥で同じ高さになります。そのため、右のマウンドからグリーン左手前と左奥に向かって下り傾斜となります。特に右のマウンド付近の傾斜が強いために、ラインが影響している場合は、距離感やラインの曲がり幅を読むには細心の注意が必要です。また最後のショートバットを沈めるまでは気が抜けないです。

奥行 30Y 幅 24Y

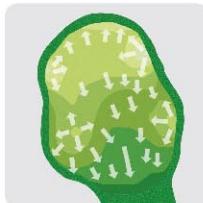
No.4 PAR 4 HDC 11

BACK	REGULAR	FRONT	GOLD	LADIES1・2
●296Y	●284Y	●273Y	●273Y	●273Y

最も距離の短いミドルホール。ティーショットは正面のバンカーに入らないクラブを選びたい。セカンドは打ち上げのライとなり、引っかけやすくグリーン左サイドのOBが浅いので注意。このグリーンは横幅が狭いためセンター狙い。



グリーンの高低差



POINT

四方をマウンドに囲まれている

グリーン手前から奥へは受けています。やや奥に下がっている部分もあるが、基本的には奥から手前への下り傾斜となります。そして四方にはマウンドあり、このグリーンを取り囲むように配置されています。そのため中央から手前が凹んだように感じられます。それぞれのマウンド付近にカップがある時は注意するのはもちろんですが、特に左手前のマウンドあたりにカップがある時は、まず距離感を一番に合わせることが必要です。

奥行 30Y | 幅 22Y

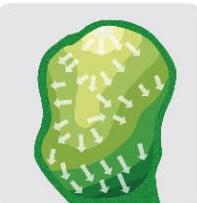
No.5 PAR 4 HDC 1

BACK	REGULAR	FRONT	GOLD	LADIES1・2
●394Y	●382Y	●368Y	●368Y	●320Y

最も難易度の高いミドルホール。コース内を流れている仁川が大きく斜めに横断している。左右のOBに注意して、ティーショットは川の手前まで。セカンドはハザード越えの打ち上げとなるが、無理にすくい上げないで花道を上手く使っていただきたい。グリーンは真ん中に尾根があり左右にボールが流される。奥からの下りのラインは特に速いのでタッチを合わせたい。



グリーンの高低差



POINT

グリーンの高低差80cmは18ホール中最大

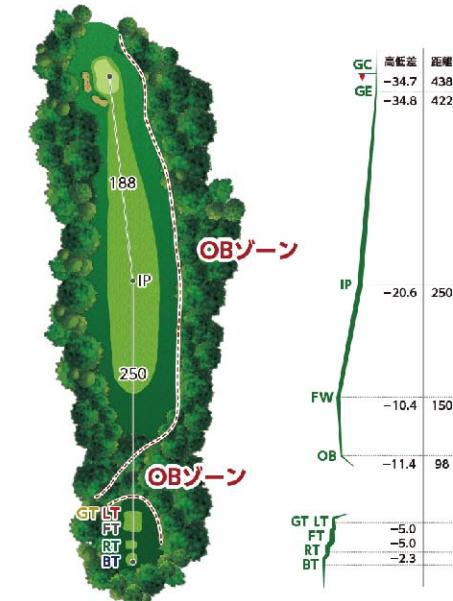
このグリーンで一番高い所は奥のマウンド、一番低い所はグリーン手前、その高低差は80cmあります。そのため奥から手前へのラインは速い下り傾斜になります。中央のマウンドと奥のマウンドとが尾根のようになり、左右に下り傾斜となっています。尾根越えのパットは距離感を合わせるのが非常に難しいです。特に中央マウンド手前付近にカップがある時には下り傾斜が強いので、ラインの読みとタッチには十分注意してください。

奥行 30Y | 幅 25Y

No.6 PAR 4 HDC 9

BACK	REGULAR	FRONT	GOLD	LADIES1・2
●438Y	●425Y	●410Y	●400Y	●400Y

遠くには、千里丘陵が見渡せる真っ直ぐに打ち下ろしのミドルホール。左はペナルティエリア、右はOBのためティーショットの方向性が大切。狙いは正面の白い的で、ボールの落下地点が見えないため、ヘッドアップに要注意。グリーンオーバーはOBになりやすいので、花道からグリーンを捉えたい。春には桜並木が美しいホール。



グリーンの高低差



POINT

手前は受けているが中央から奥はさほど受けていない

グリーン手前の面は受けているので、右手前に向かって下り傾斜。三つのマウンドが左右と奥にあります。それぞれのマウンドがどの程度ラインに影響しているのかの見極めが難しいです。左のマウンドはボールを右に大きく流れさせるほど強く影響しています。右のマウンドは見た目ほど大きな傾斜ではないのでラインへの影響力は少ないです。奥のマウンドもそんなに高くはないのでカップ位置が奥にある時はグリーンオーバーされないように距離感をまず合わせることが一番になります。

奥行 32Y | 幅 25Y

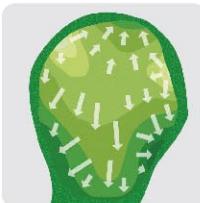
No.7 PAR 5 HDC 3

BACK	REGULAR	FRONT	GOLD	LADIES1・2
● 586Y	● 575Y	● 559Y	● 548Y	● 435Y

右に大きくドッグレッグした距離のあるロングホール。グリーン横までの右の林は全てOBとなるので、フェアウェイセンターからショットをつなげていきたい。グリーン中央が馬の背になっておりボールが両サイドのバンカー方向に流れやすいので、花道からセンター狙いが安全である。特に左のバンカーは深いので脱出が困難になるべく避けたい。



グリーンの高低差



POINT

Y字型の尾根により3つの面がある

左右のマウンドと中央の尾根とを結んだY字型の尾根状になっているのが最大の特徴です。それによって3つのグリーン面があると考えます。それぞれの面はグリーン外に向かって下り傾斜となります。特に注意したいのは、カップのある面と違う面からのパッティングの時です。アドレスの位置では上りのラインと思うのですが、実はカップ付近は下っていたケースがよくこのグリーンではあるからです。そのような場合は上りきってからどの程度の勢いがあれば残りの下りの距離感が合うかと二分割してイメージするのも一つの方法です。

奥行 32Y 幅 24Y

No.8 PAR 3 HDC 15

BACK	REGULAR	FRONT	GOLD	LADIES1・2
● 188Y	● 173Y	● 155Y	● 139Y	● 139Y

やや打ち上げの池越えのショートホール。唯一バンカーがないホール。砲台グリーンが高いのでボールも止まりにくい。グリーン正面奥のマウンドから張り出した尾根状のアンジュレーションがグリーンを左右に分断しており、同じ面からの寄せやバターに残したほうが打ちやすい。



グリーンの高低差



POINT

大きな尾根がグリーンを左右に分けている

グリーン奥に大きなマウンドがひとつ、そこからグリーン手前にかけて延びた大きな尾根が特徴です。これによりグリーン面が左右に分かれています。同じ面にパッティングラインがある時なら比較的容易ですが、尾根越えのラインの時は繊細な距離感が必要です。もしのような場面ではショートするよりも多少カップをオーバーしても良しと考えられたほうが4バットの危険性は回避できると思います。

奥行 27Y 幅 25Y

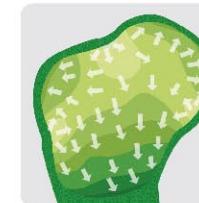
No.9 PAR 4 HDC 7

BACK	REGULAR	FRONT	GOLD	LADIES1・2
● 434Y	● 419Y	● 397Y	● 397Y	● 313Y

やや右ドッグレッグの距離のあるミドルホール。右サイドはOBやクロスバンカーもあるので、ティーショットはフェアウェイセンター狙いとなる。かなり打ち上げているので、なかなか2オンは難しい。グリーン左手前のバンカーに入れないように花道から乗せていくたい。グリーン奥から手前への下りのラインは速いので注意。



グリーンの高低差



POINT

3つのマウンドにより3つの面がある

大きく分けて3つの面があります。グリーン手前に向かって受けている面、左奥に下がっている面、右奥に下がっている面です。このグリーンではカップがある面と違う面からのパッティングは上って下りになるだけではなく、スネークラインになることがありますので、なかなか正確なラインとタッチを読み切るのは難しいです。特に左のマウンドは急傾斜ですので、そこにラインが影響している場合は細心の注意が必要です。

奥行 31Y 幅 28Y

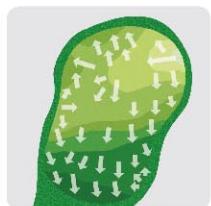
No.10 PAR 5 HDC 6

BACK	REGULAR	FRONT	GOLD	LADIES1・2
●474Y	●459Y	●441Y	●421Y	●411Y

高い松林にセパレートされたロングホール。グリーン横までの左の林はOBなので、正確にフェアウェイセンターを捉えていきたい。セカンド以降は見た目以上に打ち上げているのでやや大きめの番手で、花道から乗せていくといい。このグリーンは真ん中から二段になっており、なるべくカップと同じ段からパターしたいところ。



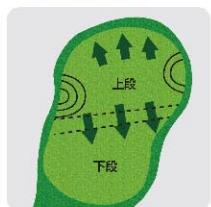
グリーンの高低差



POINT

典型的な2段グリーン

中央から奥に高くなっている典型的な二段グリーンです。下段は受けているだけで比較的易しいですが、上段のほうは二つのマウンドが左右にあるのと、一番奥が下っていることで難しいです。高低差の大きなラインの時には、上りであれば少し強めのタッチで必ず上りきること、下りの時はソフトタッチでボールの転がりが最後に加速することをイメージされて上手く距離を合わせたいです。

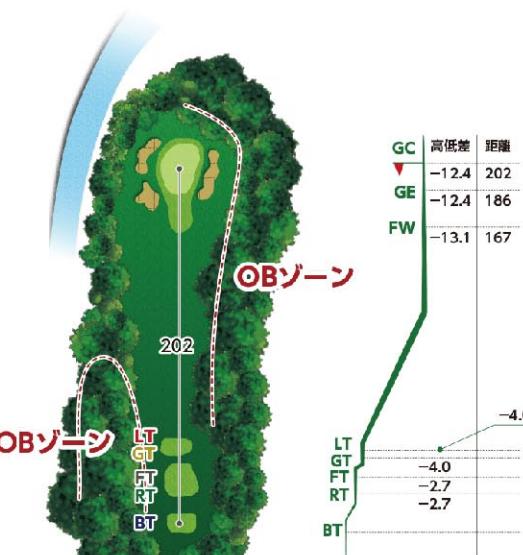


奥行 31Y 幅 27Y

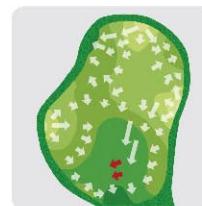
No.11 PAR 3 HDC 14

BACK	REGULAR	FRONT	GOLD	LADIES1・2
●202Y	●183Y	●173Y	●163Y	●158Y

約10ヤードほど打ち下ろしのショートホール。右の張り出した林はOB、左にはハザードと方向性が必要。アドレスを狙った方向に立ちにくいで、特にアドレスよりも注意すること。ティーインググラウンドでは風を感じないので、グリーン上は風が吹いていることがあるので番手選びも慎重にしたい。

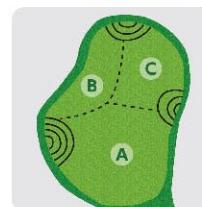


グリーンの高低差



POINT

大きく分けてグリーン面が3つある



奥行 32Y 幅 24Y

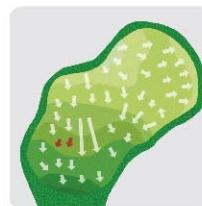
No.12 PAR 4 HDC 10

BACK	REGULAR	FRONT	GOLD	LADIES1・2
●341Y	●334Y	●318Y	●311Y	●302Y

正面の大きなモミの木が特徴的な打ち上げのミドルホール。ティーショットはモミの木の右サイドがベストポジション。セカンドはしっかり打ち上げているので、大きめの番手を選びたい。カップが左右に切ってあってもグリーンセンター狙いがボールも止まりやすく安全である。

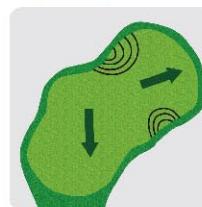


グリーンの高低差



POINT

左の面は受けているが
右の面は奥に下っている



奥行 31Y 幅 30Y

No.13 PAR 4 HDC 16

BACK	REGULAR	FRONT	GOLD	LADIES1・2
●397Y	●387Y	●377Y	●377Y	●357Y

打ち下ろしのミドルホール。フェアウェイが左に傾いているためボールが左によく転がるのでティーショットはフェアウェイ右サイド狙い。グリーンオーバーはOBが浅いので注意。カップが左にあっても花道狙いが安全。グリーン中央の溝のような窪みが、ロングバットのラインとタッチを複雑にしている。



グリーンの高低差



POINT

グリーン中央の窪みが距離感を惑わせる

グリーン中央を縦に走る大きな窪みがグリーンを左右に二分しているのが特徴です。傾斜は基本的に中央の窪みに向かって下っています。左の面は比較的シンプルですが、右の面は真ん中あたりに小さなマウンドがあります。これは見た目には分かりにくいので、この付近にカップがある時は注意が必要です。左右からのロングバットは必ず中央の窪み越えのラインとなりますので、下って上りの繊細かつ大胆な距離感が必要となります。

奥行 29Y | 幅 26Y

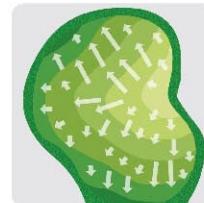
No.14 PAR 4 HDC 2

BACK	REGULAR	FRONT	GOLD	LADIES1・2
●349Y	●342Y	●337Y	●337Y	●330Y

ティーショットの精度が要求される打ち上げのミドルホール。左はOB、右はセーフだが隣のホール側に転け落ちる。セカンドはしっかりと打ち上げており、やや大きめの番手で花道からグリーンを捉えたい。グリーンは右のマウンドが高く、そこから放射状に下り傾斜になっているのが特徴である。

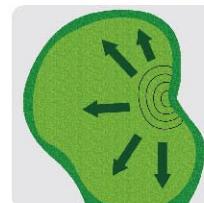


グリーンの高低差



POINT

右横の大きなマウンドを頂点に放射状に下り傾斜



奥行 32Y | 幅 25Y

No.15 PAR 3 HDC 18

BACK	REGULAR	FRONT	GOLD	LADIES1・2
●162Y	●142Y	●132Y	●118Y	●109Y

距離の短いショートホール。パーONのチャンスは十分にあるが、周りが樹木で囲まれているために風の判断が非常に難しい。右奥のガードバンカーに入ると難しい。ティーショットの番手とそれに応じたアドレス方向をきっちり決めたい。

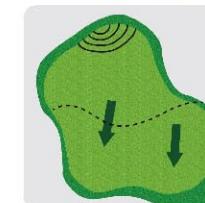


グリーンの高低差



POINT

最も高低差の少ないグリーン



奥行 28Y | 幅 26Y

No.16 PAR 4 HDC 4

BACK	REGULAR	FRONT	GOLD	LADIES1・2
●454Y	●443Y	●430Y	●422Y	●400Y

距離の長いミドルホール。仁川が自然のハザードとしてコースを斜めに横断。ティーショットは川の手前に刻み、セカンドで川を越えてグリーンを狙うのだが、セカンドのほうが距離が長く残るためになかなか2オンは厳しい。左右のバンカーに入れないように花道からアプローチで寄せたい。



グリーンの高低差



POINT

手前はシンプルな受け
奥は3方向をマウンドに、
囲まれた複雑なアンジュレーション

このグリーンは手前半分と奥半分では、大きく特徴が異なります。手前半分はシンプルな受けの傾斜で、下りのラインに残った時は速いのでタッチを合わせるのに気を付ければ良いのですが、奥半分は三方向をマウンドに囲まれており、視覚的に惑わされやすいのと、傾斜も複雑に入り混じっているため、正確にラインを読み取るのが非常に難しいです。特に左のマウンド付近は傾斜がきついので注意が必要です。

奥行 31Y 幅 23Y

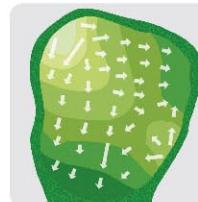
No.17 PAR 4 HDC 12

BACK	REGULAR	FRONT	GOLD	LADIES1・2
●369Y	●361Y	●353Y	●353Y	●288Y

グリーンまで約35ヤードの打ち上げのミドルホール。力が入ると左の松林に、ヘッドアップすると右のクロスバンカーにつかまりやすいので、ティーショットはフェアウェイセンターを狙うこと。セカンドはかなりの打ち上げなので大きめの番手で花道から乗せていい。ただしグリーン左横と右奥はOBが浅いので注意。グリーンを終えて振り返ったときの眺望は絶景です。



グリーンの高低差



POINT

2つのマウンドを結ぶ尾根が
グリーンを左右に分けている

グリーン左奥のマウンドを頂点に放射状に下っています。左奥のマウンドと右横のマウンドを結ぶように尾根になっています。それが、グリーンを手前の面と右奥の面に二分しています。そのため尾根越えのロングバットは必ず上って下りのラインとなるので、距離を合わせるのが難しいです。右横のマウンドが視界に入るとときは、本当にラインに影響しているかどうかの見極めが大切です。

奥行 29Y 幅 23Y

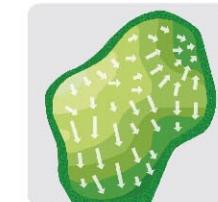
No.18 PAR 5 HDC 8

BACK	REGULAR	FRONT	GOLD	LADIES1・2
●602Y	●564Y	●545Y	●545Y	●506Y

最終ホールに相応しい距離のある左ドッグレッグのロングホール。ティーショットはプレーヤーの飛距離に応じて狙い目は異なる。ショートカットに狙えばパーでも取れるが大叩きのリスクもある。正面のバンカー狙いが安全なルート。残り100ヤード以内からの打ち上げの距離感が難しい。グリーンも大きくアンジュレーションは複雑だが、上り下りの判断を間違わないこと。



グリーンの高低差



POINT

グリーン右奥のエリアは
奥に向かって
かなりの下り傾斜である

最終ホールに相応しく非常に難度の高いグリーンです。グリーン左奥と右横のマウンドを結ぶように尾根があり、手前の面と右奥の面に分かれています。ここでの尾根越えのロングバットの距離とラインをきっちり合わせるのは至難の業です。ショートだけはしないように気を付けてください。特にカップが右奥に切ってある場合は下り傾斜がきつ、大変深いラインとなるので細心の注意が必要となります。

奥行 32Y 幅 25Y